

2019年(平成31年)

第135号

(3月1日)

平安月報
The HEIAN monthly report

発行所：立正佼成会 京都教会
 発行責任者：渉外部長 田中規之
 編集委員長：渉外広報 植田恭司
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

西本願寺で本会職員が講演 ～一食を捧げる運動の活動紹介～



京都市の西本願寺で2月14日、浄土真宗本願寺派の地方宗務機関職員「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)推進研修会が行われ、席上、立正佼成会の柳田季巳江総務部次長(渉外グループ)が『立正佼成会における社会的活動について』と題して講演した。同派では、「御同朋の社会をめざす運動」の重点プロジェクトとして平成30年度から「『貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～』一子どもたちを育むために」を実施。子ども食堂とともに、国外の子供たちを支援する募金を開始した。今回の講演は、本会の「一食(いちじき)を捧げる運動」(一食運動)を活動の参考にしたいとの依頼を受けて行われた。当日は、地方宗務機関職員50人を前に柳田次長が講演に立った。冒頭、柳田次長は、本会の平和活動の目的は、平和な社会や世界の実現とともに、実践する会員にとっては「仏になるため、信仰心を高めるためのもの」と説明。「お釈迦さまの願いのように、自らの願いで行動し、一人ひとりが世を照らす灯火(ともしび)となっていく」といった基本方針に沿って行われていると語った。

その上で、松緑神道大和山が行っていた「平和一食運動」に賛同し、本会も1975年から、月に数回食事を抜き、その食費分を献金する一食運動(当時・節食運動)を始めた歴史を紹介。その浄財が長年、貧困(飢餓)の解消や教育・人材育成などに拠出されるとともに、近年は各教会が浄財の一部を主体的に活用し、地元の非営利団体への支援を通じて温かい地域づくりに役立てる「一食地域貢献プロジェクト」も行われていると詳述した。



(佼成デジタルより抜粋)

《一食(いちじき)を捧げる運動とは》

“いつでも、どこでも、誰にでも、いつまでも”できるわかちあい運動です。「ひとの痛みを知り、ひとの幸せを祈り、ひとのために行動する心を育てる」信仰の実践です。

「世界みんなが幸せになってほしい」と祈り、世界の各地で貧困や紛争にあえぐ人々の空腹のつらさを自分の痛みとするために、自らも食事を抜きます。

そして、抜いた食事の代金を各自がそのつど募金箱に入れていきます。一人ひとりの募金は、食料や毛布、教育や植林、多くのプロジェクトとなって、世界中の仲間の支えとなります。

一食を捧げる運動では、自分の「余分」をあげるのではなく、あえて自分にとって「必要な分」である食事を「捧げる」ことを大切にしています。比較的にもに恵まれている私たちが、自分のライフスタイルを振り返りながら、少しでも少欲知足の生活が出来るようになることを目指します。(Webサイトより)

時事刻々

3月は卒業の季節です。思い出さき学び舎を離れ、上級学校に進んだり、社会人になり、新しいステージに旅立つ時期です。それぞれの夢に向かって大きく羽ばたくように応援したいところです▼ところで、「卒」という字は「衣服のえりもと」の形からできた文字で、神職や天寿をまつとうした人が死んだときに用いた衣服を意味しました。それが転じて「終わる」を意味するようになったと言われています▼一方、「卒」の略字が「卒」であることから、90歳のお祝いを「卒寿」と言います。平均寿命が延びてきたことで、こうした長寿祝いが広がっています▼「卒業」も「卒寿」も、人生の区切であるとともに、成し遂げたことへの「お祝い」でもあります。そして、その後の人生より充実させることが大切です▼京都教会は今年、発足60周年になります。60年という記念の年を迎えたことを祝福するとともに、次代に向かつて飛躍する決意を持つようにしたものです。

平成31年、私たちは「勇気をもって 私らしく やってみよう」を実践して参ります。

今月のことば ～自他の幸せを願う心～

中央支部支部長 林 希依

日々ありがとうございます。今月は中央支部支部長林希依が担当させていただきます。

今月は、会長先生から「自他の幸せを願う心」を教えて頂いています。

まず、私たち自身が仏の子だという自覚があるでしょうかと問いかけて頂き、さて、どうでしょう？と考えてみましたが、なかなか自覚するには至っていない私だと感じました。

会長先生は、「教えを自ら学んだり聞いたりしてほんとうにそうだなと胸に落ちるのは「仏の子」だからです」と教えて頂き、教会でいろいろな方々のお話を聞き勉強させて頂いたことで、「ものごとは変化してやまない」とか「みんな仏性のあらわれでこの世のすべてが大調和している」と気づいたなら、それは『『仏の子』の自覚に違いなく、自他の幸せを願い、周囲に幸せを運ぶ菩薩になれるのです」と教えて頂きました。

教えにふれる大切さ、また、その教えを聞いて得た気づき感動を素直に話すだけで、相手を幸せにできるのだと、未熟な私でも大丈夫ですよ、と教えて頂き勇気を頂きました。

又、この教えは人々が菩薩行を実践するところにあるとも教えて頂いています。

いきいきと明るく生きる自分の姿をとおして、苦の中から喜びを見つけ幸せを生み出す1人になっていきたいと思ひます、と会長先生ご自身も思っておられるのだなと感じさせて頂きました。

また「いつでも、だれにも『明るく、優しく、温かく』の姿勢を忘れないことです」と本当にわかりやすく実践目標を教えて頂き、私自身が今月は特にこのことを意識して実践してまいります。

この「明るく、優しく、温かく」をいつも感じられる場所が私にはあるのです。月に一度通っている病院でいつも体験させて頂くのです。

4年前に、次男が若年性特発性関節炎という難病にかかったことに始まります。最初は、なかなか原因が分からず、成長時期でもあった息子の体は、全身に痛みがあり、お菓子の袋も開けられないほどでした。

自閉症でもある息子に、この状態を説明することは、とても困難でした。いわゆるリウマチですので、私自身この先どうになってしまうのか、いきいき生きるにはほど遠く、なぜ、この子ばかりとっていました。

でも担当の小児科の先生はとても親身に、息子の特性も考慮しながら治療方法をさがして下さいました。そして飲み薬と月に一度の点滴治療が始まりました。その点滴治療をする所の看護師さん達がとても明るくて優しく温かいのです。

そこには、いろいろな病気の方がいらっしやいます。私は2時間ほどその場に息子といるのですが、カーテン越しに聞こえてくる看護師さんの声は、とても明るく、時には長い時間、患者さんの話に耳を傾けている様子など、忙しいのでつつい事務的になりそうですが、ほんとにじっくり話聞いて下さるのです。

私もつついしゃべってしまいます。仕事なんだからあたり前ではと思うかもしれませんが、それ以上のものをこの看護師さん達には感じるのです。

教えを頂きながらもいざ苦しむと直面すると右往左往してしまいます。そんな時に、こんなステキな方たちとご縁になると本当に救われました。

この体験を通して、病気の状態も変化する、治療には、たくさんの方のお世話になり、安心して治療をすることができる。息子の病気のおかげさまで、病院に通うことを通して、新たな出会いと、学びをたくさん頂きました。

こうやって振り返ってみますと感謝がいっぱいになります。息子は完治したわけではありませんし、ずっとつき合っていかなければならないかもしれません。

今回このお役を頂いて、思い返すことができ、苦の中にいた時の自分、たくさんの方に温かくふれ合っさせて頂いたこと、その体験をしたことが、「自他の幸せを願う心」を養う種となっていることに気づかせて頂きました。

皆さまと共に、皆さんが持っている種を大切に育て、発揮していけるよう、努力精進していきます。ありがとうございました。

合掌

10年の区切りを終え、さらに発展する「京都教会佼成議員懇話会」

2月14日（木）朝7時から、第53回京都教会佼成議員懇話会が14名の議員と10名のオブザーバー（京都教会幹部）が参加して開催されました。

本会は、立正佼成会会員綱領と法華経観に基づく政治浄化の理念を学び、政治活動を通じて広く社会に貢献することを目的とし、参加議員が主体的に運営しています。

約2か月ごとに議員が集まり、身近なできごとから感じたことをスピーチし、佐藤教会長の話に学び、朝食会で交流を図るという内容です。

今回で、10年間続いた懇話会ですが、その間幹事長を務められた植田喜裕京都府議会議員が今期で勇退されるため、幹事長を降りられました。その功績に対して会員から花束を贈呈されました。

60周年記念式典の実施概要が固まる ～記念写真展が開催～

6月2日の「京都教会60周年記念式典」の開催要項が決定しました。

■開催の趣旨・目的

開祖さま・会長先生、京都教会の先輩会員の皆様
に感謝し、新たな精進を決定（けつじょう）する。

■テーマ

メインテーマ “おかげさまで60周年”
サブテーマ “笑顔いっぱいにつながります”

■日時

2019年6月2日（日）
記念式典 9:00～
祝賀会 12:00～

■場所

立正佼成会京都教会
記念式典 法座席
祝賀会 体育室

■主な内容（予定）

記念式典 読経供養・体験説法
川端理事長講話など
祝賀会 昼食・功德の発表など

また、発足60周年を記念して京都教会普門館2階
ギャラリーにて「写真展」を開催しています。

1959年（昭和34年）12月5日の京都支部発足
式典をはじめ、連絡所時代など、昔懐かしい写真がズ
ラリと並んでいます。

これらの写真を見て私はこんな修行をしたという
「思い出募集箱」も併設されています。期間は今年11
月末までの予定です。ぜひご覧下さい。



節分会 ～経典読誦を中心に心を清める～

節分会が2月3日、法座席で行われ多くの会員が参
拝しました。

今年のご本部の式典に倣い「豆まき」を行わず、経
典読誦を中心に心を清めることを大切にしました。読経供養後、辞令交付1名、会員教育Ⅱの
修了証授与2名が行われました。

その後、佐藤教会長はお言葉の中で、節分の意義に
ついて説明。節分とは季節の変わり目であり邪気が生
じるため、自分の中の「貪瞋痴」の心を小さくし、人
さまのため、平和のために働くところをお誓いするこ
とが大切だと述べました。

教会の玄関を出れば心が汚れることがないよう意識

させて頂きたいと述べると、会場からは微笑みがあ
りました。

また邪気を寄せ付けない秘訣として、七仏通戒偈（し
ちぶつつうかいげ）を紹介。悪いことをしない、良い
ことをする、素直な心になる、申し訳ございません、
ありがとうございます、を伝えることであると話され
ました。

そして、厄年の方は今年「お役」をさせて頂くこと、
厄年でない方も「お役」を務めることで救われていく
と述べ、教会発足60周年に向け、「佼成会に行くと心
がこんなに豊かになりますよ」と証明できるように精
進をお願いしたいと結ばれました。

日常生活の中の仏教用語 ～えっ？こんな言葉も仏教が語源？～

言葉のルーツを知って仏教に親しみを持ちましょう。

【四苦八苦（しくはっく）】

ひどく苦労したり、悩み苦しむこと。「金策に四苦
八苦している」「子供の宿題で四苦八苦だ」などとい
う。

もとは、仏教でいわれる「この世の苦」を表した言
葉。「四苦」は生・老・病・死の四つで、基本的な苦し
みのこと。さらに、愛する者との別れ＝「愛別離苦」

（あいべつりく）」、嫌なものとのつきあい＝「怨憎
会苦（おんぞうえく）」、欲しいものが得られない＝
「求不得苦（ぐふとくく）」、心身の苦しき＝「五蘊
盛苦（ごうんじょうく）」の四つを加えたものを「八
苦」という。

（「仏教早わかり百科～主婦と生活社～」から抜粋）

庭野日敬開祖

法話集

～開祖随感より～

今月は、進学や就職など、新たな出会いも増える時です。そんな時に、どの様な心掛けを持てばいいのでしょうか。庭野開祖の法話から学んでみたいと思います。

「三つの言葉」

大学の卒業式で、これから社会人として第一歩を踏み出す若者へのはなむけに、こんな言葉を贈る先生がおられました。「諸君が会社に入って道を切り開いていくうえで、いちばん大事なことを教えよう。それは『おはようございます』『ありがとう』『すみません』が素直に言える人間になることだ」と。これは毎日の生活でふつうに交わされる言葉で、人間関係を保つ基本的な言葉です。その言葉すら、いまの若者たちの多くが素直に口にできなくなっているわけです。

その先生は、大学の卒業式でそうしたアドバイスをしなければならぬ現状を、まことに情けない、と嘆いておられるのです。ただ知識を詰め込んで卒業証書をもっただけでは、大学を出ても、社会で本当に役立つ仕事はできません。この社会を構成する人間としての心得こそが社会の潤滑油であり、それがそなわって初めて知識が役立つのです。

そうした大切な言葉が、いつもスッと口にできるようになるには、小さいうちから家庭でも学校でもしっかり教え込まなくてはならないのです。そのしつけの欠如は、本人にとっても、日本の社会にとっても、まことに不幸なことです。

「学ぶ姿勢の中にある学校」

人生は死ぬまで修行です。一生を通して学び、向上し、社会のために貢献するのが人間の生き方であり、それが生涯（しょうがい）学習です。私はいま校成会の会長をつとめさせてもらっていますが、この役は、ただ会員を指導さえしていればよいというものではなくて、私自身もその役を通して自分の信仰を深め、人間としての完成をめざしていくのです。

その絶えざる向上を忘れると、私自身の進歩が止ま

ってしまうわけです。

私の場合は小学校を出ただけですから、常に人の二倍も三倍も勉強しようという気持ちが強く、どんな人の言葉にも、真剣に耳を傾ける習慣が身につけてしまいました。そうして学ぶ姿勢を失わずにいと、どんなことから「なるほど」と学ばせてもらえるのです。

学校の教室で先生から学ぶだけが勉強ではありません。この社会には、よいお手本も悪いお手本もあります。また、あるときは自分が人さまの教師になり、あるときは生徒になって学んでいく。それが生涯学習です。人さまに法を説くことも大切な自分の勉強なのです。

「出会いが善縁にも悪縁にも」

仏教の教えのかなめは縁起（えんぎ）です。縁起とは他との関係が縁になって、すべてのものが生起することです。一切のものは縁によってたもたれ、縁によって変化し、そして縁が切れると消滅していくのです。

善因善果（ぜんいんぜんか）、悪因悪果（あくいんあつか）というように、人の行為には必ずその報いがあるのですが、いまの若い人たちに因縁（いんげん）というと、いかにも古めかしいものを感じるかもしれません。それで私は、因縁を「出会い」と言い換えて説明させてもらうのです。仏教は出会いを大切にすることをいっていいと思うのです。

私たちは毎日、じつにさまざまな出会いをしています。いろいろな人と出会い、いろいろな出来事と出会い、いろいろなニュースや情報と出会う。それにどう対処するかで、自分の人生が変わっていくのです。出会いを、憎しみ、争いの出会いにしていく人もいます。

逆に、どんな嫌なことも善（よ）い縁に変えてしまう人もいます。すべての出会いが、こちらの対し方で善縁にも悪縁にも変わるのです。どうすれば出会いを善い縁に変えていけるか。それを教えるのが仏教だといってもいいのです。（つづく）

3～4月の主な教会行事

●メッセージ

3月1日(金)	9:00～	朔日参り
4日(日)	9:00～	開祖さまご命日
5日(月)	9:00～	教団創立81周年記念式典
10日(日)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(金)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日
4月1日(月)	9:00～	朔日参り
4日(木)	9:00～	開祖さまご命日
7日(日)	9:00～	花まつり
8日(月)	9:00～	降誕会
10日(水)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(火)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日

京都教会の近く、東山区にある高台寺で23日、世界初のロボットの仏像、アンドロイド観音「マインダー」が完成し、お披露目されたそうです。高台寺の僧侶らが開眼法要を行った後、マインダーは般若心経の教えを説く初めての説法を行ったとのこと。法話はプロジェクションマッピング技術で四方の壁に映し出された聴衆と対話するように進行。会見した高台寺の後藤典生執事長は「約2千年前に仏像ができて仏教が分かりやすくなった。そろそろ進化するとき。動いて語りかける仏像を作りたかった」と。時代に合わせた柔軟な姿勢に私たちも見習わなければなりません。